

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100221		
法人名	社会福祉法人 旭悠会		
事業所名	グループホームメタセ		
所在地	千葉県習志野市新栄1-10-12		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成28年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の残存能力に合わせた日常生活の支援を目指しています。日常のできることは入居者主体で行っていただき、決して職員が主体とならないようにしています。  
 また、生活が単調にならないよう、季節ごとに、生活空間の雰囲気を変えたり、市内や、市外への外出行事を取り入れ、非日常を味わえる活動を積極的に行っている。同一敷地内の各サービス事業所とも連携を取り、合同の施設行事に参加している。  
 家族との連携も普段からなるべく多く取るようにし、面会時には日頃の様子を伝えたり、電話連絡を行っている。毎月、職員手書きの生活状況報告書を作成し、送付している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節毎のイベントや地域行事・併設施設イベントへの参加など四季を感じられる環境や単調にならない生活環境作りをしている。散歩や近隣への買い物、毎日の家事や作品作り・アクティビティーなど一人ひとりの出来ることに目を向け、生き甲斐を感じながら自立した生活が続けられるよう個別の生活支援を行っている。充実した研修などでスキルを身に付けた職員が『居心地の良さを提供・五感を刺激するケアを提供・ほめるための要素を提供・人生の質を高める』との基本方針を日々のケアを通してチームワーク良く実践している。職員個々の事情に配慮した働き方の工夫など働き易い環境作りに努めている事は特筆される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに運営方針と共に介護理念を掲示することで共有、実践につなげている。また、会議等を通じて理念の確認を行っている	スタッフルームの目につき易い所に介護理念・ケアの基本方針と介護者の心構えを掲示し、常に意識してケアに当れるようにしている。食事作りや外出等五感を刺激するケアに努め、残存能力を見極め、できたことを誉め、一人ひとりの入居者のQOLを高めて居心地良く生活できる個別支援に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連合町会主催の地域行事への参加や近隣への買い物や散歩での挨拶、運営推進会議等を通し地域交流をしている。市民祭りにも入居者と一緒に参加している。近隣小学校、幼稚園の行事にも参加している。	連合町会の運動会やふるさと祭り、神社の祭り等の地域行事の参加、小学校・幼稚園との交流。ならしのオレンジラスメタセカフェの開催。中学生の職場体験や老人大学の実習生の受け入れによる交流の他、多くのボランティアが来ている。散歩・買い物など日常的な交流も多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内で開催される市民祭りで認知症メモリーウォーク実行委員を務めた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの現状を報告し外部出席者から質問やアドバイスを頂き、情報交換などを行っている	地域包括支援センター職員、介護相談員、入居者や家族などが参加し2ヶ月に一度定期的開催している。2ヶ月間の入居者と職員に関する活動内容を一覧表で示すとともに、スライドでホームでの取り組みを見て頂いている。地域との交流や外出行事、食事作り等の取り組みへの評価や大震災の時の対応について等、意見交換が活発に行われている事が議事録から読み取れる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から密に連絡を取っていないが必要に応じて連絡を取っている	介護保険課担当者や地域包括支援センター担当者と必要に応じて連絡を取り、市の認知症メモリーウォークの実行委員を務める等、協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で開催される研修で学んでいる 身体拘束に関する資料を部署内に置き理解している	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する指針や入居者身体拘束管理規定を整備している。また、毎年研修を実施し、常に録音・録画されていると思ってケアに当る事を徹底している。場面を想定した禁止ワード一覧を作成し、特に言葉による抑制には職員同士で注意し合えるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で開催される研修で学んでいる 虐待の防止に関する資料を部署内に置き理解している 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で開催される研修で学んでいる。他部署専門職より資料をもらい、職員間で共有している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項を含め、丁寧に説明をして同意を得られるようにしている。法律改定時は書面・口頭にてご家族へ十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の集団・個別コミュニケーションで要望・意見を伺い、家族には家族参加型の行事や面会時に意見や要望を伺っている。年に1回アンケートを実施している。	入居者からは日常的に意見や要望を聞いて反映させている。家族には3ヶ月に一度のメタセ新聞送っている。また、ホームでの入居者の様子を毎月詳しくお知らせしている。新年会、夕涼み会、敬老会や餅つき等家族参加型の行事を多くし、いつでも意見や要望を話し易い環境を作っている。忘年会を兼ねて大掃除を家族と一緒にする等、家族にも運営に参加して頂く工夫をしている。また、毎年満足度アンケートを実施し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のグループホーム会議にて意見交換をしている。常時職員間のコミュニケーションを密に取っており、連絡ノート等も活用して情報共有をはかっている。	毎月、全員参加のグループホーム会議で業務改善提案等も話し合い、洗濯物干しやリネン交換業務の変更などに職員意見を反映している。制作物や外出行事等は職員主体で企画実行している。自己申告評価シートに基づく公平な評価を行うとともに個々の事情を反映した働き方に配慮する等働きやすい環境作りに努めており、この一年間離職者はゼロであった。また、年間計画に基づく研修の実施や認知症実践者研修等外部研修受講も推奨し、職員育成に力を入れて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップシートにて個々の目標を把握し、必要に応じて面接をするなど環境や設備の改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として年間計画の中で研修・勉強会などで学んでおり、外部の研修にも参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症メモリーウォーク実行委員を行うにあたり、市内グループホーム事業所と連携し活動を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からご本人についての情報を聞いたうえで本人とマンツーマンなどゆっくり話す時間を設け、コミュニケーションを取り、話しやすい環境・関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の際にご家族が困っていたこと・困っていること・今後の不安に思うことを傾聴し信頼関係が築けるように努力している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を伺い、必要ならば他サービス等の説明を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理など家事全般を入居者同士が一緒に行うことで対等な立場を保っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してもご家族と外食・外出・外泊したりする等本人と家族の絆を大切にしている ご家族とは情報交換を口頭や電話のほか生活状況報告書を毎月送付している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、家族以外との面会等に制限は設けず、自由に関係を保つようにしている。	孫夫婦がひ孫を連れて面会に来たり、叔母さんや友人が訪ねて来る。自宅に外泊し近所の方たちと会ったり、家族と墓参り、法事や買物、食事など本人の行きたい所へ外出している。年賀状のやり取りや電話の取り次ぎなども自由に行ない、馴染みの関係を続けられるよう支援している。麺の会やボランティア公演など併設施設との交流の機会も多い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・談笑・散歩時など日々のコミュニケーションの中で利用者同士の関係を把握し必要に応じて見守り・声掛け・介入を実施しているが、決して無理強いはいしないよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内特養に入所したご家族とは今も交流あり、認知症カフェや施設イベントを通じて交流を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について話し合い、日々のかかわり、申し送りの中で把握することに努めている	入居者の小さな希望にも出来る限り応じることを心がけている。生活の中で多くの選択肢を提供して本人が自由に選択できるように工夫している。入居者の表情や言葉の把握を大切にして、本当の気持ちを引き出せるようなコミュニケーションに努めている。言葉や事実はありのままの表現で「実施記録」や「連絡ノート」に記載しケアプラン作成につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族からの情報を頂き、ご本人との日々の会話から、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に日々のケース記録やミーティング・申し送り等で情報を共有し、現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に本人の様子等を報告・相談をし、意見を頂く。 職員はケース記録・カンファレンスで意見を出している	家族が頻繁に面会に訪れており、その機会に家族の希望を聞き取っている。毎月モニタリングを実施し、入居者・職員の評価に基づき、計画作成担当者により総合評価を行い「モニタリング実践記録票」に記載している。全職員参加のグループホーム会議では、入居者ごとの生活の様子やサービス内容について職員から多くの意見が出されている。	全職員のケアプランへの意識を更に高めるためにも、「実施記録」等にケアプラン(2)表(短期目標・介護内容)を添付する等、常に目に触れケアにあたるよう工夫することが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の暮らしの様子や気づきを記入し、情報の共有をしている。口頭での申し送りも行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が発する様々なニーズに対応し、職員が柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族から情報を頂き、個人に合った地域資源を活用できるように支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医・医療機関にて家族の付添で受診しているが、必要に応じて施設での様子を書面や同行受診にて医師に伝える等適切な医療を受けられるよう支援している	毎日、看護師による健康チェックが行われ、皮膚症状など異常所見が見られた際は速やかに受診している。かかりつけ医の受診には原則、家族が同行し、必要時には職員が付き添うこともある。薬剤変更などの受診結果は家族から聞き取り、「実施記録」や「連絡帳」に記録し職員間の情報共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日併設施設の看護師により健康チェックの確認を行っている。また、体調不良時は看護師に相談を行い、アドバイスをもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の病院MSWの集まりに出席して関係者を作っている。入院時はMSWに連絡をし、病状の把握を行い情報の共有を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、併設の特養への申し込みの案内を行っている。重度化が予想される場合は特養も連携を取り、本人と家族にとって負担のかからない方法を検討している。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」により、ホームの考え方や重度化時の対応などについて丁寧な説明を行っている。法人内の介護施設の申し込み・入所や医療機関の手配についても入居者・家族個々の希望、ニーズに沿った対応を行い、入居者本位の支援が図られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修は行っている 部署独自で緊急時の対応のシミュレーションを行なっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練は年3回行っている 訓練には地域の方にも参加して頂き協力体制を築いている。災害用の持ち出し品の準備も日頃から行っている。併設施設との連携体制も整えている。マニュアルを整備し会議時に確認を行っている。	年3回の消防訓練には入居者が全員参加している。夜間想定避難訓練時には、夜勤対象職員が一人で初期消火・通報・誘導を行うなど実践的な訓練が実施されている。玄関及び2か所の非常口からの避難誘導や歩行可能、車いす使用、寝たきりの方など個々の避難方法の確認を行っている。手順の確認は毎月の会議においても職員に周知し徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でお互いの言動を指摘し合い、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。マナー向上に努める目標を各自記入しスタッフルームに掲示している。	入居者の出来ることを見極め、できるかぎり自分で行ってもらうことにこだわっている。時間に縛られず入居者のペースで生活していただき、興味のある調理・散歩・制作など自分で選択できるように配慮している。馴れ馴れしい言葉使いや大声、声のトーンを押さえるなどに気を付けている。気になる言葉使いや対応については会議や申し送り時に職員間で注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で数多くの選択肢を提供し、本人が選択できるよう工夫をし、何がしたいのかを見極め支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴の時間以外は本人の望むことを支援している。入浴についてもなるべく希望に沿った対応を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者は、その日に着る服をご自分で選んでいる 迷っている・選択できないようであれば一緒に選ぶ等楽しみながら支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間で期間を決め毎週火曜、金曜に入居者全員と昼食の調理を行っている。食事の盛り付け、配膳も入居者と一緒に行っている。昼食は職員も一緒に食事をしている。	週2回の食事作りでは、入居者が立位で包丁を持って筑前煮やチラシ寿司の具材づくりや調理を行っている。スーパーでの食材の買い物にも入居者が参加している。ゆっくり自分のペースで食事を楽しむことを心がけている。母の日のお楽しみ献立や甘夏の砂糖漬けなど季節を感じる食事が提供されている。毎月2回は法人内の施設においてラーメンやそばなどの「麺の会」に参加するなど食を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜等食事の一部は併設の厨房より提供 食事・水分の摂取量が少ない場合は、時間をずらして個別に提供するなどしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けを行っている 本人の口腔内の状態や力に応じて職員が介助を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握した上で定期的なトイレ誘導の声掛けや介助をし支援している。個々に合わせた介護用品の提案を行い、家族にも報告している。	食事や昼寝の前後などに定期的なトイレの声掛けが行われているが、職員は入居者全員の排泄パターンを把握している。散歩などにより筋力維持を図り、出来ることは自分でやろうとする考えの浸透により、入居者のほぼ全員が自分で歩いてトイレでの排泄を行っている。3カ所の広いトイレには適切な位置に手すりを設置され安心してゆっくり排泄できるように配慮されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動、水分摂取にてなるべくトイレにて自然排便できるよう支援しているが、自然排便が困難な場合は主治医と相談し、下剤等の処方・服用も検討する		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日のある程度時間は限られてしまうが、その中で本人のタイミングに合わせて声掛けをし、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。基本的には個浴で対応している。	原則1日おきに午前・午後のいつでも好きな時間に入浴できるように対応し、無理強いはいはしないように努めている。着脱から入浴まで職員が必ず見守り、必要な人には介助を行いスライディングボードの利用などで安全な入浴支援を図っている。湯ぶねの温度には特に注意を払っている。入浴剤や季節ごとのゆず湯・菖蒲湯が用意され、気持ちの良い入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に他者と談笑しながら温かい飲み物を飲むなどをし、安心して頂けるよう支援している。不安を訴えてこられたら傾聴する等、個々の状況に応じて対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋の内容を確認、把握している。誤薬の無いように2人以上の職員でチェックをしている。服薬後体調の変化に気をつけ変化があればケース記録に記入し家族、主治医に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、楽しく役割分担ができるように支援している。外食や外出の際はどこへ行きたいか、何を食いたいかなど皆で話し合って決めることもある		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、園内、近隣を散歩したり、定期的な外出を企画し、普段とは違う外出を行っている。家族も参加できるよう促している。	天気の良い日は毎日、園内を20分ほどかけてゆっくりと散歩を楽しんでいる。業務日誌に散歩の頻度を記録し、全員に外出の機会をつくるように工夫している。墓参りなど家族の協力による個別外出の他、歴史民俗博物館、チューリップ祭りなど入居者の希望の場所への外出行事も多く企画し行われている。近くのスーパーへの買い物に出かけた際には、ファミレスなどで外食やお茶を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが、個別に小遣い程度のお金を所持している方もいる 買い物では、職員見守りのもとレジにて支払をして頂くこともある		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・親戚から手紙が来ることもあるが、返事を出したことはない 毎年家族には年賀状を出している 誕生日など家族から電話があり会話をすることはある		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作った作品・装飾品をリビングや玄関等に飾り季節感などを感じていたくように工夫している	リビングや玄関には入居者が作成した切り絵やぬり絵などの季節の飾り、行事の写真が掲示されている。職員は今日の天気や新聞の話題を入居者に話しかけ、入居者同士の会話も弾んでいる。ゆっくりと落ち着いて過ごせるように相性や状態を把握し、テーブル席の配置にも考慮している。エプロンがけでのリビング・廊下の掃除やテーブル拭きを日常的に入居者が自発的に行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者同士会話を楽しむ姿、マッサージチェアで独りになりゆっくり過ごしたりと特に制約はなく、新聞を読んだり、パズルを楽しむ方もいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みのある家具や本人の思い出の品を持ってきていただき、居心地の良い環境づくりをしている。居室扉の飾りも入居者と一緒に制作している。	自分の家であることを感じてもらうために馴染みのある家具や家族の写真、仏壇などが自由に持ち込まれている。転倒防止のために家具の配置などに注意を払っている。24時間換気を行い、居室の臭い除去やシックハウス防止を図っている。出来る限り入居者自身が居室の掃除を行う等、残存能力を大切に支援が図られている。居室の名札の横には月毎に菊の折り紙やクリスマスの飾りが飾られ、季節を感じる工夫がみられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に動いていただけるようになってる 場所を示すプレート等を取り付け、混乱せず生活して頂けるように工夫している		